

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：稼働率・生産能力指数(2006年3月)  
～生産能力は緩やかながらも上昇～

発表日：2006年5月17日(水)

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭  
TEL：03-5221-4525

(単位：%)

		稼働率指数						生産能力指数					
		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
04	1-3月	0.1	6.0	0.3	13.3	▲1.5	3.7	▲0.5	▲1.7	0.8	2.5	▲0.1	▲1.2
	4-6月	1.9	5.7	0.6	15.3	▲4.3	6.5	▲0.1	▲1.0	4.2	5.5	▲1.9	▲2.4
	7-9月	0.3	5.6	▲4.6	2.7	▲0.7	5.2	▲0.1	▲0.7	1.5	7.3	▲0.7	▲2.7
	10-12月	▲0.2	2.2	▲5.0	▲8.5	0.3	2.9	0.0	▲0.5	2.5	9.3	0.1	▲2.6
05	1-3月	0.9	1.5	1.2	▲8.5	2.8	5.1	▲0.2	▲0.2	0.3	8.7	1.0	▲1.5
	4-6月	1.1	2.3	0.7	▲8.0	0.4	3.2	0.1	▲0.2	1.9	6.3	▲0.2	0.2
	7-9月	▲1.4	0.3	3.7	0.6	▲4.8	▲2.2	0.2	0.1	1.0	5.8	0.4	1.3
	10-12月	2.3	2.6	4.5	9.8	2.9	0.9	0.4	0.5	3.5	6.8	1.2	2.5
06	1-3月	▲0.6	1.7	1.7	11.3	1.3	0.4	▲0.1	0.6	▲0.2	6.3	0.0	1.5
05	1月	2.3	1.6	1.8	▲9.0	5.7	4.8	▲0.2	▲0.2	▲0.3	9.4	1.1	▲1.5
	2月	▲0.9	1.6	▲0.3	▲8.1	0.6	6.3	0.0	▲0.1	0.3	9.7	0.0	▲1.5
	3月	▲0.2	1.2	0.1	▲8.4	▲0.5	4.3	0.0	▲0.3	0.4	7.1	0.0	▲1.5
	4月	2.6	2.2	0.6	▲8.7	4.8	4.6	0.0	▲0.5	1.1	6.8	0.0	▲1.5
	5月	▲1.9	2.6	▲1.0	▲9.5	▲7.0	3.5	0.1	0.0	0.5	5.8	▲0.2	1.4
	6月	0.5	2.1	2.6	▲5.9	1.9	1.6	0.1	0.0	0.5	6.3	▲0.1	0.8
	7月	▲1.4	▲1.3	0.8	▲3.0	▲3.4	▲3.6	0.0	0.1	0.0	5.5	0.0	0.8
	8月	0.4	1.5	2.3	0.7	▲1.7	▲0.9	0.0	0.0	0.8	6.0	0.0	0.8
	9月	0.2	0.8	▲0.1	4.4	2.5	▲1.6	0.3	0.3	0.2	6.0	1.8	2.3
	10月	0.9	2.1	2.1	7.1	▲1.7	▲3.6	0.2	0.5	3.1	7.0	0.0	2.3
	11月	1.3	2.3	1.0	10.0	4.5	0.3	0.0	0.5	0.1	7.0	0.0	2.3
	12月	0.9	3.3	2.9	12.3	1.6	6.7	▲0.1	0.4	▲0.2	6.5	0.2	2.7
06	1月	▲0.8	1.5	0.5	12.8	▲3.8	▲2.0	▲0.1	0.5	▲0.1	6.7	▲0.1	1.5
	2月	▲0.9	2.5	▲1.6	10.5	2.6	0.2	0.0	0.5	0.0	6.4	0.0	1.5
	3月	▲0.3	1.3	0.1	10.5	2.9	2.4	0.1	0.7	▲0.2	5.8	0.0	1.5

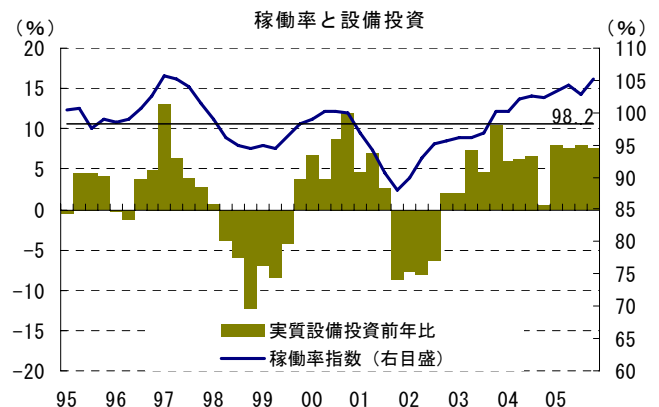
(出所)経済産業省「鉱工業指数」

## ○ 稼働率は3ヶ月連続で低下したが、基調としては上昇傾向が持続

3月の稼働率指数は前月比▲0.3%と3ヶ月連続で低下した。業種別にみると、15業種中8業種で上昇し、7業種で低下した。

上昇した業種を見てみると、輸送機械工業が前月比+2.9%（前月同+2.6%）、情報通信機械工業が同+9.6%（前月同▲3.1%）となった。輸送機械工業の上昇は、北米向けや中東向けなどの自動車輸出が好調なことを反映してのものであり、高水準が続いている。しかし、電気機械工業が前月比▲13.2%（前月同▲4.8%）と前月に引き続き低下したほか、化学工業が同▲6.5%（前月同▲0.9%）、金属製品工業も同▲5.9%（前月同▲1.8%）と全体を押し下げた。

電気機械工業は2ヶ月連続での低下であり、低下幅も98年以降で最も大きなものとなったが、一時的なもの判断する。稼働率の大幅な低下は、需要が好調なデジタル関連での能力増強が一部あったことも影響していると考えられる。4月の電気機械工業の生産予測指数は前月比+3.4%、5月は同+1.6%と先行きは生産の増加が見込まれていることからすれば、稼働率も上昇してくると考えられ、特段心配する必要はないだろう。また、製造工業の4月の生産予測指数は前月比+3.8%と増加が見込まれていることから、4月は稼働率全体でも上昇する可能性が高



い。稼働率が基調的には上昇傾向にあるとの判断には変わらない。

90年代後半からの稼働率と実質設備投資（GDP）の関係から考えると、稼働率が98.2以上となっているときは実質設備投資が前年を上回っているという経験則が観察できる。3月の稼働率指数は104.1（季節調整値）と98.2を大きく上回っており、高水準で推移する稼働率は先行きも設備投資の下支え要因になると考えられる。

### ○ 生産能力指数は前月比+0.1%と緩やかながらも上昇

3月の生産能力指数は前月比+0.1%、前年比では+0.7%となった。業種別には、電気機械工業での上昇（前月比+1.8%）が大きいですが、上述したように、デジタル関連での設備増強が寄与した。また、一般機械も前月比+0.2%となった。国内、海外ともに需要が堅調なことから、引き続き能力増強投資を行っていると思われる。一方、鉄鋼業が前月比▲1.1%と比較的大きいマイナスとなったが、経済産業省へのヒアリングによれば、設備の廃棄というよりは生産能力の計算方法の見直しというテクニカルな押し下げがあったとのことである。

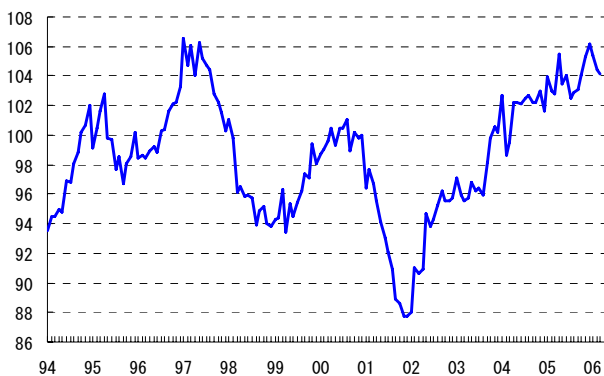
全体としてみれば、設備の過剰感が解消し、債務の調整を終えていることから、企業経営者は成長のための投資に前向きになってきている。期待成長率も上昇しており、設備投資関連の各種統計からは今後も設備投資が堅調に推移することが示唆されている。先行きも生産能力は緩やかながらも持ち直し傾向を辿ろう。

### ○ 生産指数（確報）は速報時から変わらず、出荷は上方修正

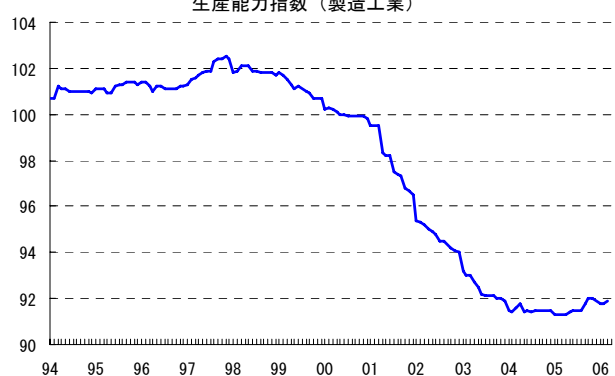
3月の鉱工業生産指数確報は、前月比+0.2%と速報段階から変わらなかった。ただし、出荷は前月比+0.9%と速報時の同+0.2%から上方修正となった。速報段階での1-3月期の出荷は前期比▲0.1%と5四半期ぶりにマイナスとなっていたが、確報での上方修正により同+0.1%とプラスに転じた。

なお、3月の在庫指数は前月比+0.2%（速報同+0.1%）と小幅上方修正、在庫率は同▲0.4%（速報同▲0.3%）と小幅下方修正となった。

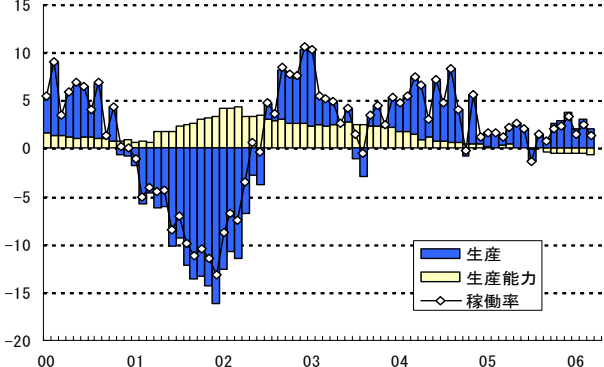
設備稼働率（季調値、指数）



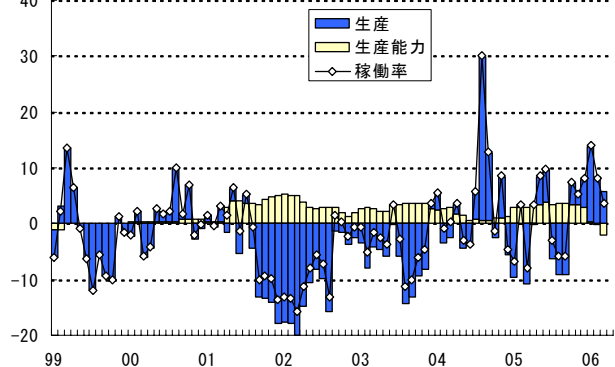
生産能力指数（製造工業）



稼働率指数寄与度分解前年比（製造工業）



稼働率指数寄与度分解前年比（電気機械）



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であると限りません。